

# 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体 令和4年度第2回会議 議事録

日 時：令和5年3月17日（金）午前10時00分～午前11時00分

場 所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室

出席者：委員8名（欠席1名） 支援組織3名 健康福祉部長 事務局3名  
第1層コーディネーター2名 （その他：傍聴者2名）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、会議に出席する事務局は人生100年推進課のみとした。

## 配布資料

- ・ 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体委員名簿
- ・ 資料 1 市内第2層協議体の活動状況
- ・ 資料 2 令和4年度の取組について
- ・ 参考資料 令和4年度生活支援コーディネーター研修（第2層協議体の支援）の概要

## 会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 大和市における第2層協議体の活動状況について ……資料1
  - (2) 令和4年度の取組状況について ……資料2
  - (3) その他
4. 閉会

## 会議内容

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題

会 長：それでは、本日の議題の1番目「大和市における第2層協議体の活動状況」について、事務局から説明してください。

◆資料1（市内第2層協議体の活動状況）に沿って事務局から説明。

事 務 局：ただいま事務局から、各地区第2層協議体の活動状況について、報告を行いました。本日ご出席されている委員の皆様や、支援組織の方の中に、活動に関わっている方もいらっしゃいますので、補足説明などありましたら、簡単にお話いただけますでしょうか。

会 長：「ハート公所つきみ野」で行っている「ハートお助け隊」について、「見直しの検討を行っている。」ことの説明をすると、ボランティアが依頼を受けて、お宅に伺って見積もりを立てるが、人によっては、熱心になり過ぎて、あれもこれもやりましょうと言うことで、当初の見積もりより

高額になるということがあった。当初はそんな趣旨ではなかったが、依頼する方からその場で「あれも、これも」と頼まれると、見積りの金額をオーバーしてしまうことになる。果たしてそれが良いのかどうか。コロナ禍ということもあったが、本来のやり方に立ち返って見直さないといけないと、今検討中である。第2層協議体も皆さんの所もそうだが、設立してから5年が経って、どんな問題が出てくるのかということも思っている。

委員：「ねっとわ〜く福田北」では、設立当初にミニサロンを開催している方に集まっていたいただき情報交換を行い、地域の中にあるミニサロンを必要に応じて拠点の来所者に紹介してきたという経緯がある。昨年度、コロナ禍で皆さんがどのように開催しているのか改めて情報交換会を行い、いろいろなお知恵を頂戴した。今年度も3月に開催をした。昨年度は自分のミニサロンの開催の仕方について話をすることが中心だったが、今回は疑問に思っていること等、様々な意見が出たので、年に1回は集まって情報交換をすることが大変に有意義であることを感じ、次年度も開催する方向で考えている。これまでは専門職による相談日を設けていたが、コロナでそれが出来なくなった。しかし、専門職の方々がどのような工夫をしているかをコーディネーターが勉強することで来所される方に反映できたらと考え、コーディネーター研修を行った。とても有意義であったと思う。地域包括支援センターについての研修も行った。コロナ禍ではあったが、逆にコーディネーターの研修は進んだと思う。また、なるべく拠点に来ていただきたいという思いから「廊下アートギャラリー」を開設したが、出展していただける方を見つけるのが大変で、まずは拠点開所当初から毎月写真を提供してくださる方に廊下側にも出展を依頼するなど工夫を行い、現在はデイサービスの利用者さんたちの作品を展示している。少しずつだが地域の人たちや事業所の作品を展示して、それを知り合いの人たちが見に訪れて、拠点「ここさぼ」を知っていただくという流れが出来たら良いと思っている。

委員：上草柳地区については、平成29年10月から約5年間、準備会を行ってきた。実際にはコロナの状況等から準備会が開けずにいたこともあり年数が過ぎたが、その間、市担当者や市社協等の多くの皆さんにご協力とご支援をいただき感謝をしている。そうした中で、昨年12月4日に設立総会を迎えることが出来た。以降、12月、1月と拠点となる事務所の整備をしてきた。物理的な整備はほぼ終わり、これからはソフトの部分として、コーディネーターを見つけていかななくてはならない。その後、先行している他の第2層協議体同様に、介護予防を含め、高齢者がより良い暮らしが出来るように支援をしていきたいと考えている。それから、地区社協、民生委員児童委員、自治会、その他の団体の皆さんが、長年の間地域でボランティア活動をしているので、そうした方々と連携をしていく事が大事であると痛感している。今後ともご指導のほどをお願いします。

- 会長：ありがとうございました。第2層協議体の活動状況等について、何か質問やご意見はありますか。
- 委員：中央林間地区に居住し、生活協同組合運営協議会委員として出席しているが、第2層協議体が出来ていない地区であり、設立されている皆さんには敬意を表す。特に、上草柳地区は5年を経てできたということで、今後、我々の参考となると考える。地域ボランティア活動との連携が課題だということだが、ボランティア一人ひとりが活動をしていて、拠点を設けるといふ段取りが手付かずなので、第1層協議体での内容が本題となってくると思う。第1層協議体の会議が年に1回、2回の数少ない中でそれが出来るかと言うと、上草柳地区で5年かかっていると言うこともあるが、何とかクリアしていきたい。そのために、地域ボランティア活動団体との連携をスムーズにすれば早くできるのではないかと思う。参考にさせて頂かないといけないので、今後ともよろしくお願いしたい。
- 会長：只今の件について、事務局から何かありますか。
- 事務局：中央林間地区について、後ほど説明をさせていただきますが、昨年、自治会の関係では、協議体はどういうものなのかと言うことを説明させていただいた。こうした説明については、自治会だけでなく、その他の活動団体に対しても理解を深めていただくよう順次対応を進めているところである。次の活動報告の中で説明するので、よろしくお願いしたい。
- 会長：それでは、次の議題の「令和4年度の取組状況について」事務局から報告してください。

◆資料2（令和4年度の取組みについて）に沿って、事務局から報告。

- 会長：ありがとうございました。それでは、市社会福祉協議会から令和4年度に実施した研修についてご報告をお願いします。
- 支援組織：大和市から委託を受けて、大和市社会福祉協議会が、第2層協議体の推進役である生活支援コーディネーターを対象とした研修を企画するという取り組みに取組んできた。研修企画に対しては、大きく3つのポイントを置いた。1つは、生活支援コーディネーターが協議体運営をする上で抱える課題や悩みを解消するための研修。2点目は、現在6地区で設立されている協議体の取り組みを、それぞれ共有するための情報交換の場を作る。そして最後の3つ目が、未設置地域への働きかけ。以上3つのポイントで研修事業の展開を行った。令和4年度については、コーディネーターの方々の情報交換の場の一つとして拠点活用の方法に着目し、生活支援コーディネーター研修「拠点におじゃまツアー」と題して、各拠点の活用方法等の視察見学を行った後、各生活支援コーディネーターによる情報交換を行ってもらった。1回目は「ハート公所つきみ野」で、9月22日に拠点へ訪問し、つきみ野自治会館で情報交換会を行った。2回目は「ねっとわ〜く福田北協議体」で、10月25日に拠点の「ここさぽ」を訪問させていただいた後、桜丘学習センターにて情報交換を

行った。両日とも、訪問先の協議体の事業概要や拠点の説明を受けたのち、情報交換会を行っている。上草柳地区は設立してまだ間もないので、次年度については、南林間地区か中央地区の協議体の視察を考えていきたいと考えている。続いて、未設置地域への働きかけの一つとして取り組みをしたものが生活支援体制整備事業に関わる研修会で、第3回地区社協部会において、市内に11ある地区社会福協議会の会長の皆さんに、第2層協議体の現状と地区社協活動の相違点等について説明をさせていただいた。先ず、人生100年推進課から大和市における生活支援体制整備事業の概要についての説明を行い、設置地域の地区社協の会長からの状況報告をいただいた。その上で、地区社協が果たしてきた役割と第2層協議体との連携についてというテーマで市社協から報告をさせていただいた。なお、この3月には桜丘地区社協の役員研修として第2層協議体をテーマに研修を企画していただいている。以上が委託事業として取り組んだ令和4年度の生活支援コーディネーター研修であります。それ以外にも各地区の協議体から各地区で行う研修に対しての情報提供依頼を受けている。9月17日に下鶴間地区協議体で、地域の方の研修と言うことで、講師との調整を行った。なお、来年度については、「拠点おじゃまツアー」で把握した各地区の共通課題をテーマに据えて研修を企画していきたいと考えている。

会 長：ありがとうございます。事務局と市社協から説明がありました。支援組織として出席されている中央林間地区包括支援センター長、上草柳・中央地区包括支援センター長、ご意見、感想等がありますか。

支援 組織：個人的に、偶然、地区社協の会長とお会いしたことがあった。以前に比べて雰囲気としては出来てきたという話をされていたが、直ぐに纏まるということでもなく、拠点をどこにするかといったようないろいろな課題があるということをおっしゃっていた。話を聞いた中では、そう遠くない時期に話が出てくるのではないかという感触を持った。

支援 組織：上草柳地区において、昨年12月に「ふれあい協議会」が設立されたが、中央地区が先行して設立されているということもあり、こちらでの地域包括支援センターの対応してきた役割等を活かして上草柳地区の活動に支援組織として一緒に協力していきたいと思っている。

また、中央地区について、市内で高齢者が増えている状況や高齢者世帯のうちの半分以上が独居世帯という様なこと、地域包括支援センターの相談件数や内容について非常に困難なものが増えているといった印象があり、地域包括支援センターだけでは高齢者の在宅支援をすることは難しいと思っている状況の中では、やはり、第2層協議体との連携や協力を得ることが、大きな力となっている。地域包括支援センターの出来ることとして、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域ケア会議の開催、そこでの第2層協議体の参画・協力ということをして令和4年度もウエイトを置きながら進めてきた。圏域の地域ケア会議では、インフォーマルサービスの意義について考えるということをしてテーマに専門職の方、行政の

方、地域包括支援センター、中央地区の協議体の方にご参加いただいて、これからの高齢者支援の在り方について考えさせていただく機会を持たせていただいた。個別の地域ケア会議としては、認知症当事者の方の社会参加支援、生きがい支援、大和市では令和3年度に「認知症1万人時代条例」が施行されていることもあるので、条例の実現に向けて協議体にお力をお借りしているところである。また、地域包括支援センターとしては、出張相談を月2回継続して実施させていただいているということと、中央地区の広報誌「えんがわだより」の企画などに、一緒に参加させていただいている。

会長：ありがとうございました。令和4年度の取り組み状況等について、皆さん、何かご質問・ご意見等がありましたらお願いします。

委員：先ほど中央林間包括のセンター長から報告がありましたが、私も会議に参加させてもらった。その時にも災害時のいろいろな施設とのつながりについてその場で分かったということもあり、地域としては財産になった。皆さんが設立のための話をしていくということでは、会長からもあったようだが、発信者というか、元になる人を誰がやるかということがはっきりすれば、上草柳地区のように進んでいくと思う。説明会等について、連合自治会の会長さんたちしても誰がするのは、はっきりしない。まずは、発信元を誰にするかを決めるために、小規模メンバーでも話をすれば少しずつは進むのではないかと思う。そのお膳立てを誰がやるかということである。もう一步ではないかと思っている。

会長：事務局から何かありますか。

事務局：前回開催しました8月の第1層協議体の会議の時に、未設置地区の状況についての話の中で、コロナ禍の状況下において思うように動いていないとの下向きの回答をいたしました。確かに、先ほどの上草柳地区のお話でもコロナにより、設立まで5年かかったとの経緯があった。しかしながら、あの時のお話がきっかけとなり、中央林間地区について、話を聞かせて欲しいとのお話をいただき説明会を開催させていただいた。この第1層協議体の会議についても、コロナにより意思の疎通がとりづらい3年であったと思う。8月の顔を合わせた会議の会話の中で、実際に進んだところもある。コロナも大夫落ち着いてきたので、来年度以降は、改めて設立に向けた動きを活発にとっていきたいと考えている。皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。

会長：第2層協議体というのは、地区社協エリアの11地区ですが、大和市の総合計画には、当初8地区であった。審議会の中で、8地区ではなく全地区で進めて行こうということで市に提言を行った経緯がある。残り5地区ということで、設立できていない所でも、活動状況を聞いたらやってみようという話もあるかもしれないので、何か方法を考えていけたらいいかもしれない。協議体ごとにいろいろなタイプがある。とりあえずやってみようということが大事だと思う。やっていく中でまたいろいろと考えていけばいい。向いているところが違うかもしれないが、その地

域の特性を活かしてそこから始めればいい。初めから効果を狙ってということはできない。地道に進めていく事が大事だと思っている。

その他で事務局から何かありますか。

事務局：次年度については、委員改選の年となる。年度の早々に各団体様に委員推薦の依頼をさせていただきますので、よろしくお願いをする。

会長：その他はよろしいか。

委員：このコロナ禍の中で関係者の皆さんにはご苦労があったと思う。上草柳地区も立ち上がったということで素晴らしいことである。5地区がまだ立ち上がらないということが課題だと思っている。意見として、2点ほど述べたい。家庭や個人のかかえる課題については、家庭や個人による解決と公的機関による解決があって、協議体はその中間で、地域コミュニティで解決を目指すものと思っている。言い換えると民と公の協働ということである。そうだとすれば、それぞれの資源を出し合う必要がある。民は、人が沢山いるので人的資源ということになるが、この人的資源は実際の活動に対して行うものであって、組織を立ち上げるころの力は、行政が先に出て関わらないと難しいと思う。コロナで活動に制限があったのは分かるが、今後組織化するためにはハードルを下げないと、残りの地区が立ち上がるのは難しいかと思う。一方で、各協議体の活動状況の説明を受けて、今後ますます高齢化が進む中で必要な組織なので、是非残りの地区も立ち上げて欲しいと思う。そこで、一点、例えば立ち上げたところは、地域にキーパーソンというか、中心を進める人がいたんだと思う。そういう人にあたっていけば、その人のネットワークで出来たのではないか。そういうことのない地域もあるので、立ち上げに対する支援として、支え合い推進員（コーディネーター）ではなくて、組織を立ち上げるためのコーディネーターを、大変だと思うが行政が中心になってやってくる必要があるのではないかと思う。もう一点は、活動の場所である。資料を見ると民間の施設を借りている。役所には以前からコミュニティセンターというものがあり、既に30、40年経っている。使用目的が決められているが、現況では高齢化が進み、地域の課題も違ってきている等、当初の状況とは大夫違いがあるので、そうした場所を資源とし、条例や法律に縛られずに柔軟に施設を活用して、集まりやすい場所を作ること考えてはいかがか。地域の方には何処でもわかるのだと思うが、民間のビルの1階や2階というと分かりにくいこともある。拠点を作る機運は必要だと思う。検討してもらえるとありがたい。

会長：大和市の第2層協議体というのは、他の市町村と比べて違っている。大和市では、各地域でお願いしなすとなっているが、他市では、コーディネーターも市で担当してしまっている。大和市の場合は、地域の住民が関わって立ち上げていく。拠点の場所も11地域あると場所も雰囲気も違って来る。商店街に借りるところもあれば、空き家を借りるところもあると思う。市と協議していかないとならないが、知恵を絞って

決める。そういった状況の中、スピードの速い所と遅い所とあるが、大和市の開所している5ヶ所の拠点の内容を書類だけではなく写真を撮って併せてPRするようにすればもう少しわかりやすくなると思う。大和市の第2層協議体というのは、他市を参考にできるわけでもないということを感じている。次年度の宿題としたい。

事務局：ご意見ありがとうございました。大和市では、地域主体ということを中心に協議体の設立等を行っている。会長からもお話のあった通り、他市においては、行政が率先してやっているところがある。ただ、住民主体が良いと感じるのは第2層協議体の研修で、お互いがどういう活動をしているのか、どういう動きをしているのかという場に接すると、熱気がある。大学教授の話をうかがう場も貴重ではあるが、やはり現場の声、実際に地域でどういう動きがとられているのか、という熱い話は、横で聞いている私も、学ばせていただくことが多々ある。そういったことを今後も開催していくと同時に、ご指摘のあった課題も他市の状況をみながら、今後設立に向けて検討していきたいと考えている。

会長：本来なら職務代理から閉会の挨拶をするところではありますが、職務代理が欠席のため、本日はこれで終わります。ありがとうございました。

#### 4. 閉会